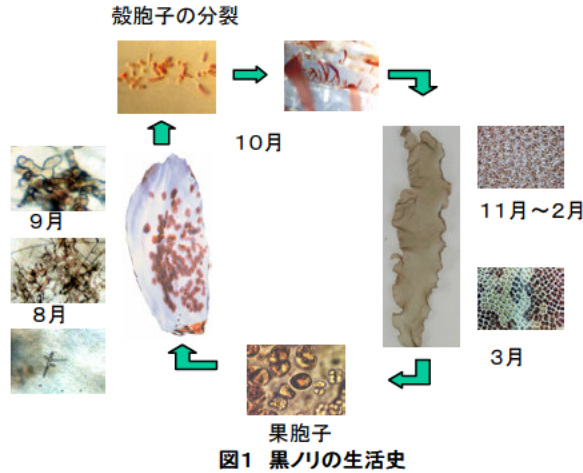


# 黒のりに関する研究

## 【黒のり養殖について】

三重県では毎年10月から翌年3月にかけて木曾岬町から鳥羽市の伊勢湾沿岸で黒のり養殖が行われています。10月中旬から11月中旬にかけて海岸近くに立てた竹（支柱柵）で海苔網に付けた殻胞子を数cmののり芽になるまで育てる育苗という作業を行います。その後は支柱柵で養殖を行う方法と沖に網を浮かべて養殖を行う浮き流し方式とに分かれ本養殖が始まります。この本養殖が始まると10日～14日に1回生のりの摘みとりを行います。

黒のりは自然の状態では春になると葉体に雄と雌の細胞ができ、受精して果胞子になり、貝殻の中で生長します。秋になると貝殻から殻胞子が放出され、網などに付着したのち海苔の葉体に生長します。



## 【黒のり優良品種の開発】

近年、地球温暖化に伴い、伊勢湾の海水表面の温度が上昇しています。そのため、黒のり養殖を始めることができる時期がだんだん遅くなってきています。このことにより、黒のりを養殖できる期間が短くなり、生産枚数が減少する傾向にあります。そこで、高水温耐性をもった黒のりの開発を行っています。

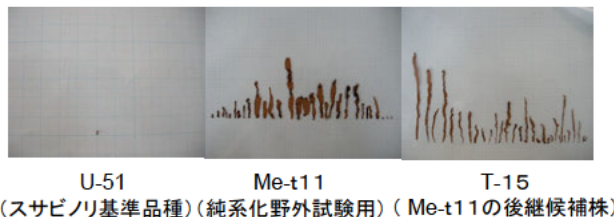


図2 室内試験による高水温耐性候補株の選択

## 【成果と今後の課題】

- ・室内選抜試験により高水温耐性候補株が作出された。
- ・今後高水温耐性候補株を用いて野外養殖試験を実施し、実用品種を開発する。

## 【赤ぐされ病耐性評価手法の開発】

赤ぐされ病は水カビの一種 *Pythium porphyrae* がノリに寄生し、ノリを枯死させる病気です。当研究室では室内培養実験によって黒ノリ品種間の赤ぐされ病耐性評価手法の開発を行っています。この手法の開発により、品種間の赤ぐされ病耐性の強弱を数値により判断することが可能となります。これにより養殖品種の選択や品種判別、さらに品種登録を行う上での手段として利用できるようになります。

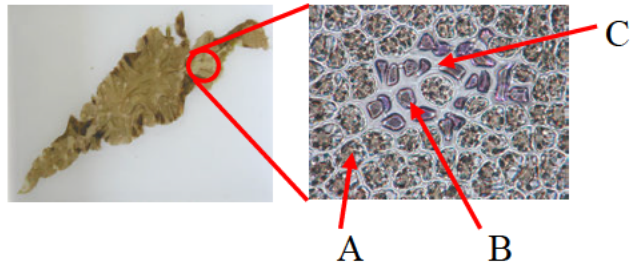


図3 赤ぐされ病罹病葉体とその細胞写真  
A.正常細胞:B.死細胞:C.赤ぐされ病原菌の菌糸

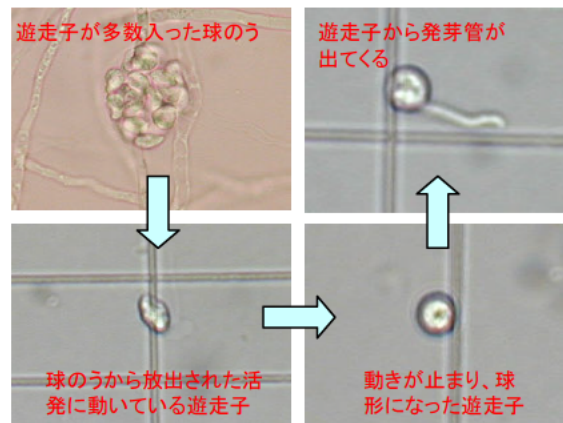


図4 ノリに感染する赤ぐされ病原菌遊走子の形状変化

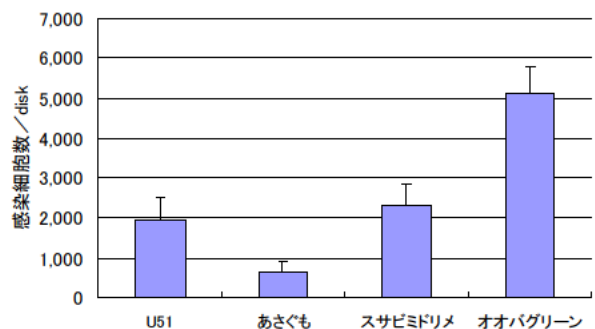


図8 品種別ノリ葉体Disk 1枚あたりの感染細胞数

表 品種別あかぐされ病耐性値

	U51	あさぐも	スサビミドリメ	オオバグリーン
あかぐされ病耐性	100	0.33	119	262

## 【成果と今後の課題】

- ・赤ぐされ病耐性評価手法の開発がほぼ完成した。
- ・数品種間の赤ぐされ病耐性の違いを数値化し評価できた。
- ・今後さらに多くの品種について赤ぐされ病耐性の数値化を進める。